

## 八戸市地域おこし協力隊活動状況報告書

八戸市長  
熊谷 雄一 殿

隊員氏名 大久保 加名子

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2024年3月分】

### 1. 実施した活動の概要・状況

ECサイト・ローカルマーケットオンラインショップ運営、農園マルシェ営業計画策定、岩手県一関市DMO・遠野市の体験コンテンツ視察、SNSによる広報活動を行った。

#### (主な活動)

【一関 DMO 視察】 世界遺産平泉・一関 DMO が取り組む、滞在型観光の促進、地域課題解決に向けた観光地域づくりについて伺うことを目的とした視察に行った。一関 DMO の取組みの中で、消費単価を上げる・リピーターを増やすことが目標である「滞在型観光地」「リピートしたい観光地域づくりについての取組み」についての説明をしていただいた。一関 DMO では観光戦略として「記憶に残る体験」の提供を目指している。そして、観光に来れば SNS で発信してくれる 20 代～40 代をメインターゲットに設定し、文化に関わるコンテンツの造成や、高単価かつ消費額を上げられる「そのために宿泊旅行をするような体験」を提案し、地域の生活に触れながらゆるやかな人間関係の構築につなげること(記憶に残る体験)で、リピーターを創出していくという戦略である。また、時代に合わせてこれからは「非日常」ではなく、「異日常」(※地元の人にとっては日常・当たり前のことだが、ソトの人にとっては珍しいこと)の体験がトレンドになるという話が印象的だった。八戸においても 20 代の若者の価値観がまさに「異日常」の体験へと変化しているのを実感している。人々の価値観の移り変わりを即座にキャッチし、地域の現状やアンケートから課題や弱点を的確に把握したうえでアクションの設定をし、観光コンテンツを地域に根付かせる仕組みづくりを行っている点が学びになった。

また、一関市の街並みを歩いていると、おもちに関するお店が徒歩 10 分圏内でも複数あった。一関市では、年間 60 回以上おもちを食べる文化があるという。300 種類を超えるもち料理があるなど、観光向けだけではなく、地域の生活にも密着していることが伺えた。八戸市でも、郷土料理であるせんべい汁が食べられるお店が外から見てわかるようになれば、食文化としてより強く根付かせられるのではないかと感じた。地元の人が観光客に勧めたくても、どこで食べられるのかが把握しづらいため、勧めにくいというのが現状ではないだろうか。観光客にとって認知度の高さだけでなく、実際に現地に来て食べるという体験につなげられやすい環境の提供も観光分野において大事な要素だと気づくことができた。



果報餅

(岩手県南部に伝わる縁起のいいもちのこと)



果報餅の種類

## 2. 翌月の活動予定

EC サイト運営、SNS 発信、カフェ営業計画策定・開業準備